

## ◆今期間のポイント

## &lt;主要じょう乱の概要&gt;

- 4日から5日にかけて、高気圧が日本付近を通過し、この高気圧は6日には日本のはるか東へ進む。
- 6日から8日にかけて、前線を伴った低気圧が日本海を北東に進む。

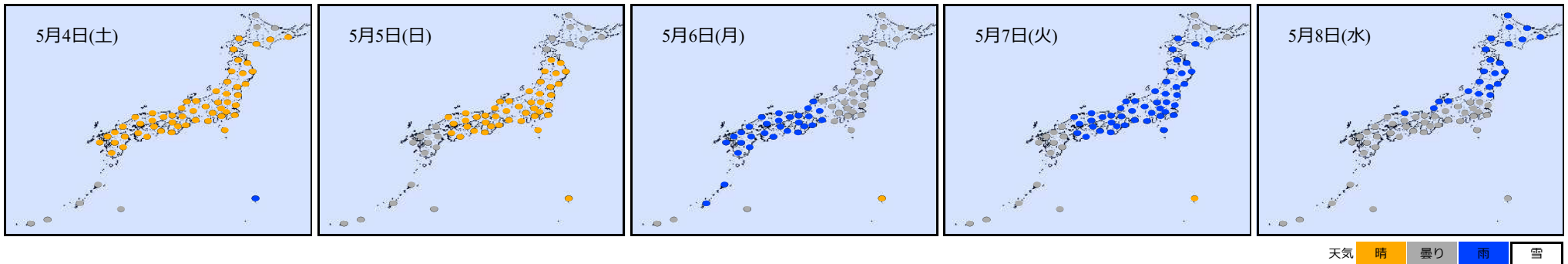
## &lt;防災事項&gt; 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 北日本と東日本では、期間の前半を中心に気温が平年より高く、かなり高い所もある。積雪の多い所ではなだれ等に注意。
- 令和6年能登半島地震で揺れの大きかった地方は地盤の緩んでいる所があり、少しの雨でも土砂災害の危険度が高まるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

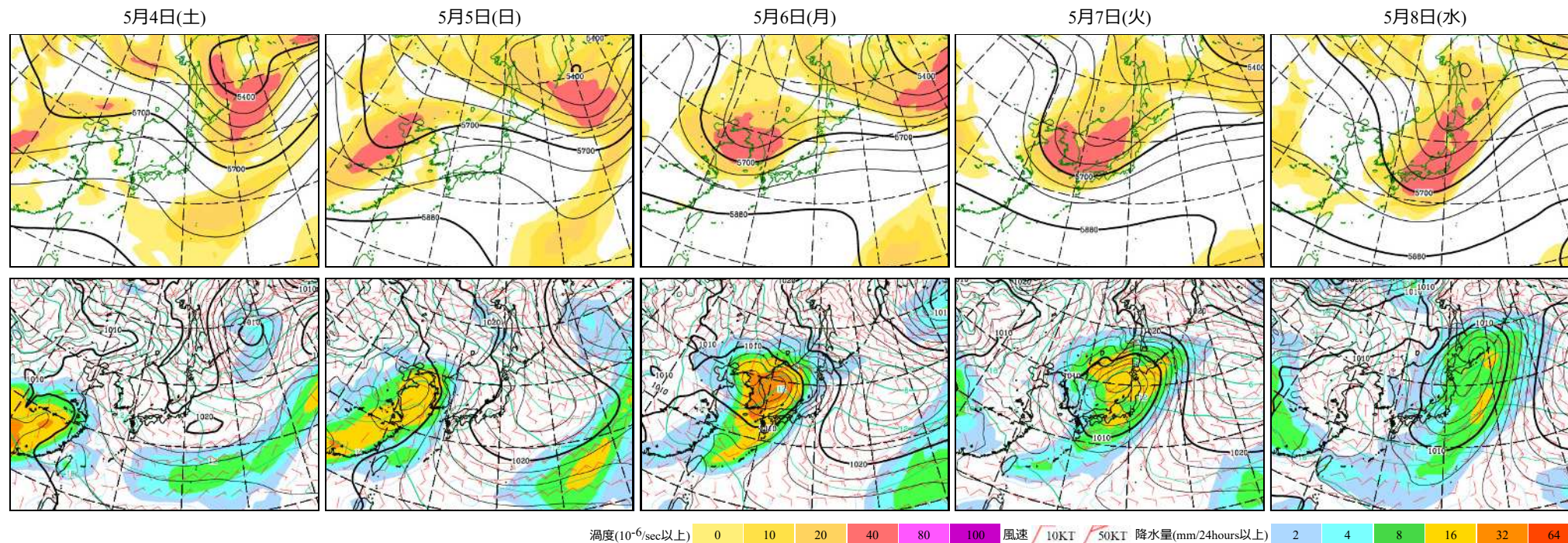
## ◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)



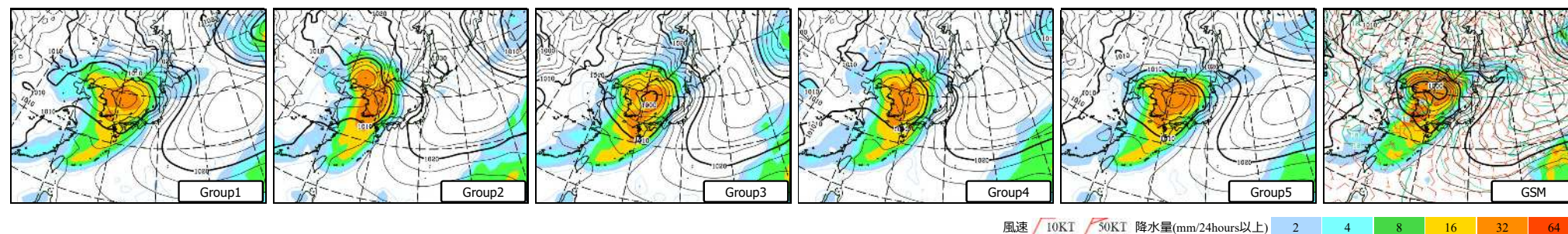
- 北日本から西日本にかけては、4日と5日は晴れる所が多いが、6日以降は雲が広がりやすく雨の降る日がある。
- 沖縄・奄美は、晴れ間もあるが雲が広がりやすく、雨の降る所がある。



◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆5月6日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、6日以降の東西の流れがやや遅くなった。地上の気圧配置の予想は、大きな変化はない。
- 各モデルともに7日以降はトラフの東進が遅れる傾向になった。日本モデルより海外モデルの方がトラフの東進が遅く、地上の低気圧の予想にも違いが見られる。
- 6日のオホーツク海の高気圧は、海外モデルの方がGSMより強く、その後の低気圧の動向に差が出ている。ENSには、海外モデルと同様にオホーツク海の高気圧を強く予想するメンバーも含まれるが、多くはない。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考えるが、6日以降は東西の流れが遅くなる傾向にあることから、低気圧の東進をENSより遅らせて考える。